
ロシア史研ニューズレター

ОБЩЕСТВО ИССЛЕДОВАТЕЛЕЙ ИСТОРИИ РОССИИ

No. 121

April 2021

2021 年度大会は 10 月 23 日～24 日 オンライン開催

自由論題・パネル報告募集中

【事務局より】

春を迎え、暖かな陽射しの日が続くようになりました。会員の皆様にはご健勝でお過ごしでしょうか。残念ながら、新型コロナウイルス感染症に関しては、今なお警戒が必要な状況にあり、大会を対面で実施する場合、様々な感染対策をとったとしても、多くの人の移動、接触による影響を防げるかが危ぶまれます。こうしたことから、今年度のロシア史研究会大会は 10 月 23 日(土)、24 日(日)の 2 日間、Zoom を利用したオンライン形式によって開催いたします。

会員同士の久しぶりの再会を楽しみにされていた方々も多くいらっしゃるかと思います。昨年が続いてご不便をおかけすることとなりますが、何卒ご理解賜りますようお願い申し上げます。

なお、共通論題提案は既に締め切られておりますが、自由論題報告・パネルの応募締め切りは 4 月 30 日(金)です。応募用紙をロシア史研究会サイトの「大会」欄よりダウンロードのうえ、事務局 巽 (tatsumi(at)tufs.ac.jp ※(at)の部分を@に変えてください)までお送りください。多くの方からご応募いただければありがたく存じます。

＜大会時の託児サービス＞

本年度はオンライン開催のため、会場内託児はありませんが、託児補助(自宅などでのシッター利用に対する助成)を実施します。詳細は後日、メーリングリストにてお知らせいたします。

＜大会時の委員および監事の選挙について＞

大会のオンライン開催に伴い、委員会は、次期委員・監事の選挙実施方法の検討および選挙の実施を担当する選挙管理委員会を設置しました。構成員は、浜由樹子、左近幸村、河本和子、畔柳千明の四名です。現在、原則として電子的な手法を用いた選挙を実施する方向で検討を進めています。詳細が決まりましたらメーリングリストおよびニューズレターでお知らせいたします。

【委員会議題】

2021年1-3月において、委員会はミーティングを開催せず、メールリストで審議を進めました。主な議題は下記のとおりです。

- ・大会の会場、実施形態と日程について
- ・委員改選のための選挙の実施方法について
- ・例会の開催について
- ・日本学術振興会賞および育志賞の推薦依頼
- ・JCREES 幹事会改組案について
- ・ハラスメント規程の制定について

【例会開催情報】

日程:7月25日(日)

開催方法:Zoom 利用によるオンライン開催

報告者:伊丹聡一郎氏(明治大学大学院)

題目:「14世紀後半のモスクワ=ノヴゴロド関係—ルーシ北方地方を巡る抗争を中心に—」(仮)

詳細は、後日メールリストでお知らせします。また、例会でのご報告をご希望の方は委員までご連絡ください(担当:池本今日子 kyoko.ikemoto2018(at)gmail.com ※(at)の部分を@に変えてください)。

【新会員紹介】

2021年1月~3月の新入会員(2名)をお知らせします。

中村 真咲(2021年1月27日入会)

所属:名古屋経済大学経営学部教授

研究テーマ:20世紀前半におけるブリアート知識人の政治思想

伊丹 聡一郎(2021年3月7日入会)

所属:明治大学大学院文学研究科博士後期課程

研究テーマ:中世ロシア史(とりわけ14-15世紀のモスクワ大公国とノヴゴロド共和国の歴史)

ロシア史研ニューズレター

第121号 2021年4月12日発行

編集・発行 ロシア史研究会委員会

(河本和子・畔柳千明)

〒183-8534

東京都府中市朝日町3-11-1

東京外国語大学 大学院総合国際学研究院

巽研究室気付
